

ディスカッション①「現役二世の声」

司会

では、初めに長澤さんから基調講演の感想を聞いていきたいと思います。

長澤

そうですね。まず、中山弁護士から組織性、継続性そして悪質性の観点から家庭連合が解散に値するののかということも簡潔に語っていただきまして、もうゼロに等しいんじゃないかということが、非常に希望的に感じました。また、杉原先生から西洋的な視点、そして中国の視点での法律というのが異なるということだったりとか、遡求禁止というところで、被害者救済法というのが成立していきましてけれども、それは過去にわたっては、適用されるものではないということが非常にわかりやすかったです。まあ、いずれのお話を聞いても、やはり法律家の視点としては、今この解散請求が求められてると言われてますけれども解散に値しないし、解散することはないという風に改めて実感したんですけども、ただ、やはり世論が大事という話も同時にされていまして、その現実とのギャップですね、世間のイメージをどう変えていくことができるかということが、これから非常に求められていくんじゃないかなということを感じさせられました。

司会

ありがとうございます。やっぱり白熱してる部分も凄くあると思うんですけど、法律だったり、客観的に見てみた時に、自分たちが感じてる内容と現実ってのは違うんだなということも自分も感じました。事件が起こってからもう1年以上が経過しながら、教会に対するバッシングっていうのは続いてると思うんですけど、長澤さんとしてはこの1年間どういう気持ちで過ごしてきましたか。

長澤

そうですね、あの、私自身は二世であるということも、特段友人とか会社の同僚に、自ら積極的に公表はしていないので、実害とかそういう意味では特にはないんですけども、ただやはりこの1年を振り返って、本当に世間からどう見られているのだろうかとか、もし、友人だったり会社の人に自分が家庭連合の二世であるということが分かった時に、どういう反応されるのかなというのが、非常にモヤモヤ感と言いますか、苦しい思いを通過したなという風に感じています。あの、多くの信徒の方は、普通に平日は働いて、そして日曜日の午前中には、礼拝に行くといったような形で、普通に生活しているんですよ。なので、そういう普通に生活してる人たちが、全部一緒に反社会的だとか、そういう風に言われるのは、明らかに見当違いだなということを感じています。今回の出演にあたって、ある意味公開されるものであるもので、決意は必要だったんですけども、で

も、私自身別に恥ずかしいことはしておりませんし、間違ったことはしていないと思うので、堂々とこの場に参加いたしました。

司会

自分も出演するにあたって、家族に出てもいいかなって確認が必要だったり、妹は露骨にちょっと嫌な顔をしていました。どこか生きづらさと言うか、そういうのを感じるのは多いかなと思うんですけど、成田さんはいかがですか。

成田

はい、私も去年の事件以降に過激な報道が続いていたので、ちょっとニュースを見ると悲しくなってしまうので、ニュースとか Twitter とかあんまり見ないように過ごしてはいたんですけど、でも 1 年間通してかなり悲しいことの方が多かったなという風に思っています。特に母なんですけども、母は入教する時に家族から結構反対された状態で入教していて、その後 10 年、20 年かけながら毎年実家に帰って良好な関係を築いていって、すごい仲良かったんですけど、ただ、その バッシングによって家族から、やっぱ脱会してほしいって話をされて、その後音信不通になってしまって、この前も祖母の家帰ったんですけど、その親族にはもう会えずに、お墓参りだけして帰るっていうことがあって、自分自身としても、家族に反対されたりとか友達から反対されたりと、そういう風に理不尽なことが続くとすごい悲しいなという風に思っています。

司会

事件前は仲が良かった友人とか親族と、事件をきっかけにして関係が崩れてしまったみたいな話はすごい耳にするなって思いますね。小嶋さんはどうでしたか。

小嶋

私は、普段、職員家庭連合の職員をやっているんで、あの周りが長澤君とかと違って、みんな信じてるので、そこまで大変なこともなかったんですけど、ただ 20 代の世代っていうのはバッシングが初めてで、私は銃撃事件以来凄く驚いて、テレビ付ければ、旧統一教会問題ってやってるので、一人のた打ち回ってたんですけど、結構周りがおじさん、おばさんが多いそういう教会なので、職員の人達が全然、へっちゃらっていうか、慣れてるというか、昔もあったんだよねっていう感じだったので驚いてたっていう一年間でした。成田さんがさっき言ったみたいに見ないようにしてするっていうのも一つ手なんですけど、私は職員として向き合わなければいけないなかったので、いつも報道には耳を傾け、ツイッターもいつも見ながら、また、二世の人たちがどのような発信をしているのかっていうのに向き合わなきゃいけないかったっていうのが、凄く一年間辛かったですね。ただ、向き合えば向き合う程、やはり声を出していきなきゃと思って、シンポジウム一回目、4月にやったんで

すけど、その一回もやった後ですね、700件ぐらい感想が届いて、その中には今まで職場では、隠れキリスタンのように身を潜めて、でも家に戻れば、テレビ付ければバッシングがあつて、でも親はこうさっき言ったように信念持ってやっているのを引けないと、凄く悩んでいたんですけど、シンポジウム見てやっぱり信仰を持つことに誇りを持っていこうと思ひましたと、教会ずっと行ってなかったけど行くようになりましたとか、こういう喜ばしい話がかなり届きました。

ただ、私の中で衝撃的だった一通がありまして、そこに私たちと同じぐらいの世代のお母さん世代の方からメールがあつて、長文だったんですけども、実はこの元々悩み易い娘が、私たちと同じ世代の娘がいて、テレビを見ながら泣いてたんですけど、その次の日に自殺してしまいましたというメールだったんですよ。私の娘は君たちみたいに強く雄々しく生きられなかったですけど、無念にも亡くなってしまったけど、同世代なので娘の代わりに強く頑張ってもらいたいと、そういうメールが届いて、二世の会のメンバーみんなで見ながら何とも言えない気持ちになつたんですけど、あまりにも私個人としては重すぎて昇華し切れない過酷な現状があるんだと感じました。1回目、2回目、3回目と、このようにシンポジウムを行つてるんですけども、少しでも神様を信じることとか、信仰を持つことを否定されて苦しんでいる。先ほど一世の方々が強くいるんだって言ひましたけど、でも心の奥底では悩み、傷つき、ある人はノイローゼになったり、そういう方々もやはり確実にいるので、少しでも信仰を持つ人たちの気持ちを信仰を持ってない人たちにも分かつてもらいたいなという思ひでこの一年間過ごしてきました。はい。

司会

悲しい気持ちになりました。自殺未遂を起こしてしまつた方がいたんだって聞いて、それもすごいショックではあつたんですけど、実際に本当に命を絶つてしまつた人がいるのは、受け止めがたいものがすごいあるなつて。実際こう報道がこう激しくなる中で、そういう報道に対して、苦しい思ひをしている人たちが多いつていうのは思ひんですけど、それが今もあまり変わつていないとか、実際にタイトルにもあるように、7割が解散請求を欲してつて、世論としても解散した方がいいんだみたいな、変わつてないと思ひんですけど、その点に関しては、小嶋さんはどう思ひます？

小嶋

そう。まさか、7回も質問権が行使されると思ひてなかつたんですけど。そうですね。質問権行使の背後にはさまざまな要因があると思ひんですけど、一つは俗に言う宗教二世問題、教会を離れた二世たちが訴えてる内容つていうのが、一つ。そういう叫びにこたへていこうつていうのもあるでしょうし、後は高額献金。靈感商法問題だったり、政治家とのかかわりだったり、さまざまあると思ひんですけど、私たちは現役二世としてつていうこと

なので、少しこの宗教二世、教会を離れた二世たちの声に耳を傾けていこうかなとこの時間思うんですけど、成田さんは私たちみたいな現役の二世だけじゃなくて、離れた二世たちの声とかがって聞きますか。

成田

そうですね。私も同期と言うか、同い年が結構多くて。(うん。)それで実は教会行ってない人が半分以上いるんで。ただ友達なので話は聞いてるんですけど、やっぱり信仰を強制されて苦しかったとか、あと、一世が、親世代、親はやっぱり教会を優先するので、もっと家庭を優先してほしかった、そういった話はよく聞きますね。

小嵐

結構、私も事件以降、かなり元二世の、元二世と言うか今は教会来てない二世の方々に耳を傾けることも、なるべくしようと努力してきたんですけど、一つ今思ってるのは、やっぱり世代が違うなっていうのを凄く感じていて、私たちこの二世の会、立ち上げたのが20代の二世たちが結構中心になって、今これやっていて、よく言われるのが40代とか50代、一番上に50代の二世っているんですけど、50代、40代、30代の二世の、ある意味年上の二世の人たちからは、何かよくやるねとか言われて。いやいや、え、もっと年上がやれば良かったのにとか思いながら、そうですね、まあ結構言われるんですよ。何かそんな力がよく出てくるね、みたいな。はーと思ったんですけど、よくよく聞いてみると、ちょうど中高生期に、そういうバッシングがあった世代とか、そういうお兄さんお姉さん方は、結構難しいと(感じていると)言うか、私たちは(バッシングが)初めてなので立ち上がったみたいな。こういう世代間の違いって凄くあって、今、よく言われてるのは6万人、今、家庭連合の二世が出生ベースで、5,6万人で言われていて、その中で私が95年生まれで、96年生まれが二世で一番多い世代なんですよ。で、私が2番目に多い世代なんですけど、この二十六、二十七っていう世代が一番多いんですよ。なので、私たちの親世代は結構子育ても終わってて、私たちの世代が今どんどん出産していて、三世がどんどん生まれているっていう中なので、そういう家庭連合の状況なんだっていう風に思ってるんですよ。うん。

長澤

いや、ほんとにそれは僕も思ってることで、僕も今26なんですけれども、周りの2世たち見ても、結構結婚していった方も多くて、中にはもう赤ちゃんとかもいるんですよ。で、そうするとやっぱり今まで宗教二世問題っていうのは、結構一世の方の信仰心だったりとか、教会優先してきたっていうところのある意味、ちょっと歪みみたいなのところもあったのかなとは思っているんです。家庭をないがしろにしまったりとかもあったのかなと思うんですけども、でも世代が変わり、二世たちがこれから三世を育てていくという立

場になっていった時には、私たちは自分たちの子供たちだったり、三世という人の立場だったり、社会と教会のギャップだったり、そういうものを理解してあげられると思うし、そういう子育てできるんじゃないかなと僕は思ってます。

成田

なんかその点で言うと、あの純潔教育って結構顕著だったのかなって思ってた。

小嵐

恋愛禁止。

成田

恋愛禁止とか付き合っちゃいけないとか、手を繋ぐとか、喋るとか。修練会あるある、箸とかスプーンも全部男女で分けるみたいな。(ありましたね。) そういう風に。そうですね、厳しいなとは思ったんですけど、でも、一世にとっては大切な純潔っていうのをどうやって二世に継承しようかっていうので、結構悩まれてたのかなっていうのは思うんですけど。私たちにっては純潔を守って良かったとか。私、自分で受けたいと思って(祝福結婚を)受けてるので。そういう良い部分を、今度は二世から三世に継承できるかなって思うので、同じことは繰り返さないとか。だんだん変わってくるなとは思いません。

小嵐

そうですね。日本では今二十七、六が一番多行って話をしたんですけど、韓国だとちょっと上って言うか、韓国発祥の宗教なので。私が韓国に大学留学してた頃は、四世とかも結構いて、友達結構三世なんです。あの(日本とは)一世代違って、いいなと思ったのは、三世の友達はみんなお父さんお母さんだけでなく、祖父母にも相談できるっていうのが凄く羨ましくて。私の場合は母が入教したのを祖父母はすごく反対していたので、相談はできないとか、日本にも私たちと同じぐらいの(世代の)三世もぼつぼついるんですけど。まあ、これからどンドン世代を経て、三世、四世、五世、六世となってくじゃないですか、解散させられなければ。私たちが実感してる良いものは受け継がれていて、これはきつかったなど、辛かったなっていうものは、だんだん改善されていくものだと思うので、世代を積み重ねていく中で家庭連合も根を張った宗教になってくたろうなっていうのは凄く感じてるんですよ。うん。

司会

はい、結構世代変わってきてるっていうのは大きくて、去年の会見で20人ぐらい二世の責任者が出てきてスーツでずらずらとありました。ハンターみたいな、ターミネーターみた

いな、ちょっと真顔でずっとみんなこうやってやったんで、まあそこで笑顔過ぎてもちよっと怖いと思うんですけど、ああいう人たち、結構知り合いのお兄さんの方々が多いんですけど、本当にみんな熱くて優しい方々で、そういう責任者の方が若くなっていく中で、教会が変わってるっていう声はすごい聞きます。二世で若いんですけど、年上の一世の先輩たちにもズバズバ物怖じせずに言ったりして、色々教会も変わってるんだという声も聞いたりします。ただ、やっぱイメージとしては、まだ変わってないというか、お金め集団、反社会的団体、マインドコントロールされてる。僕らもなんかこう、上からこう操られてると。

小嵐

はい、そうだね。そう言われるんですよね。二世の会は教団がやらせてるんだって言われて、辛いんです。

司会

そういうイメージとかあると思いますけど、そういう世の中の目というか、そういうのは長澤さんはどう思いますか。

長澤

いや、やはり中に所属してる身としては、すごくギャップを感じざるを得ないという感じですよ。本当に周りの人たち見ている普通の人たちですし、宗教的な価値観を持って、ために生きる実践だったりとか、愛し赦していこうだったりとか、そういう内面性を備えた人たちが一生懸命普通に暮らしてるだけなんですよ。普通これだけバッシングとかもあったら、何か反論していったりだとか、一方的に批判したいみたいな思いも出てくると思うんですけど、どっちかっていうとそういう人たちのためにも、祈ってあげましょうとか、そういう方々も多くいるわけなんですよね。

具体的にボランティア活動とかで、この前の秋田の水害とかでも多くの方が、実際ボランティア活動したりとかもして、そういう中で、全部、反社だと言われて、一括りにまとめられて、レッテルを貼られるっていうのは、非常におかしいなと思います。

宗教二世の問題について、ちょっと言いたいんですけど、この宗教二世っていう言葉の響きがなんかすごくよくないですよ。もう宗教そのもの(の印象)がやっぱり良くなって、もう宗教イコール悪、宗教＝良くないみたいな、そういうイメージがやっぱ日本の社会にすごくあると思っています。で、宗教二世という言葉自体もすごくマイノリティーを助長するような表現だなど思っているんですよ。よく僕も結構アニメとか見たりするんですけど、アニメとかでもなんか宗教とか出てくると、なんかすごい、カルト的な、こうニコニ

コ笑顔の人たちがたくさんいるみたいな。なんかそういうのよく見るんですよ。

小嵐

見ます、見ます。教祖がなんかこうやって操られてる、そういうのあります。(それはさすがに違うだろうと。) いや、あれは本当ひどい。

長澤

ただ、結構世間の目はそういう風に見られてるんだなっていうのはね、なんとかしないといけないなと思います。

小嵐

はい、そうですね。

成田

先程も中山弁護士もおっしゃってましたけど、本当にこう、世論を変えないと、何も変わらないなっていうのは思ってる。

小嵐

うーん、ですね。どうやってか、変えられるかっていうのは悩ましいんですけど、やっぱりそういう、何かそういうイメージなので、

司会

解散させた方がいい、ほっといたら危ないみたいな感じのなんか。

小嵐

あの、徳永先生よく言うんですけど、何かゾンビだと思われてるらしいので、人間なんだっていうことを言えと、伝えないといけないですね。

司会

ニュースとか SNS 見ても、いわゆる元 2 世って言われる方だったりとか、反対してる弁護士の全国弁連の人だったりとか、解散請求をするんだと本当に必死になって叫んだ人が多いと思うんですけど、そういうのについてはどう思いますか。成田さん。

成田

いや、私が思うのは全国弁連とかあると思うんですけど、そこはやっぱり宗教によって被害を受けられた方を助けてあげたいっていうのが、パブリックイメージだと思うんですけど

ど、個人的にはどう考えても、色んなあることないこと取って付けて、宗教をいかに悪に思わせるかっていうことにしか見えなくて、正直、攻撃されてるような感覚はあります。

長澤

本当にいろんな反対の意見とかも、もちろん目にするんですけども、そういうのって非常に結論ありきだなと思うわけなんです。本当に解散させることを目的にいろんなものをこう付け足していているという、それって解散を本当にするに値するのかってことが全然適切に議論されていなくて、もっと客観的に議論もされていくべきだなと思っています。

司会

執念チックなものを、こう感じますね。

長澤

いや、本当にね、本当に。何かある意味ね、ある意味宗教的なんですね。非常にこう、自分の信じるもの、自分は間違っていないっていう意思でただただ主張するっていうところがなんかありますね。はい。

司会

洗脳されてる人たちを助けてあげるみたいなイメージで、救済って単語よく使えると思うんですけど、いわゆる拉致監禁とかも、救済してあげてると。(保護説得) 保護って、南京錠かけて保護って言うのかなと思ったりするんですけど。

小嵐

福田ますみさんも一回目のシンポジウムで全国弁連や拉致監禁の話されてて、会場に集まってる人で拉致監禁知ってる人っていうことで、結構手挙げてたじゃないですか。その時の話の流れで、私の母もって話したんですけど、その裏で、いや、それは拉致監禁された方が悪かって(鈴木エイトさんが)言ってたっていうのは後から聞いて、私の祖父母は拉致監禁(したけど)、今はもうちゃんと入教してるので、何か凄くショックだったんですよ。本当に何か酷いですよね。

司会

だから、そういう発言っていうのも、結局、信仰とか宗教に対するイメージがちゃんと分からないからこそ出てくる考えかなと思うんですけど。

小嵐

悲しいですね。

司会

今回のテーマの解散請求っていうのも信仰とか宗教に対する理解があまりない人たちから出てきてる意見ばかりが取り上げられてるようにも思っていて、そういう中で今回のテーマの解散請求、解散された後も色々あると思うんですけど、解散請求についてはどう思いますか。

長澤

そうですね、この7月、安倍元首相の暗殺からちょうど1年ということで、非常に解散命令請求だったりとか、その先の解散命令がなされるのかということが世間的にもある意味賑わっていたかなと思っていました。まあ、先程基調講演の中で解散に値することはないというお話をいただきましたけれども、こういった世論の現状で、具体的に解散請求とか、そういう流れになっていった場合に、この家庭連合はどういう風になってしまうのかというところに関しては、具体的な話を有識者の方から伺いたいなど。(聞きたいですね。) はい。

小嵐

解散請求を出されて、裁判で解散命令ってなった場合、オウム真理教とか出たと思うんですけど、そうになったら教会とかも全部没収って聞いているので、信仰は別になくなったりはしないのでどこかで何か活動してくと思うんですけど、全部、財産もなくなるということで、悲しいしどうなっていくのかなっていう。

成田

いや、教会なくなるって言われると、いつも礼拝してたりとか、礼拝の後にみんなでゲームしたりするんですけど、そういうのもできなくなるのかなとか思ったり。まずはどこで集まるのかって言ったら、近くの公園とか、もしなかったとしたら、うちの団体、すごい高齢者多いので、倒れちゃったりとか…

小嵐

今夏なので、お爺ちゃん、お婆ちゃんが公園で集まって…

成田

ね。そうですね、ちょっと心配になる

司会

そっちの方が危ない感じしますよね。

長澤

あ、危ないです。

司会

では、そういった内容も含めて、是非先生方に聞いていきたいなと思います。はい。二世としての率直な解散請求に対する思いだったりとか、疑問もさまざまに出てきたところで、これから有識者の先生方を交えてディスカッションにしていきたいと思います。では、ステージのセッティングを行ないますので少々お待ちください。